

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 113

令和5年(2023年)

令和5年度日本庭園学会関西大会の
開催について(予告)

発行 日本庭園学会(会長 大澤 伸啓)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部
造園科学科 庭園技法材料学研究室
TEL(03)-5477-2428(栗野 隆 理事)
<http://www.igarden1992.jp/index.html>

令和5年度日本庭園学会関西大会の開催について(予告)

令和5年度の日本庭園学会全国大会は「江戸の大名庭園～再生と未来～」のテーマで開催されました。関西大会ではこれに引き続き、関西の大名庭園を代表するひとつである滋賀県彦根市に所在する旧彦根藩の大名庭園にスポットを当て、現地検討会ならびに公開シンポジウムを企画しました。現地検討会・公開シンポジウムでは、彦根市担当者や文化財庭園保存技術者から彦根城の世界遺産登録に向けての取り組みの現状や、玄宮園の保存管理・修理事業についてご報告いただき、彦根城を含み大名庭園の再生と未来についてディスカッションを行う予定です。

詳細は学会ホームページならびに次号学会ニュースにてお知らせいたします。

1. 大会概要

◆日程

令和5年11月18日(土)・19日(日)

◆内容

【1日目】令和5年11月18日(土)

現地検討会 10:00～17:00(予定)

集合:彦根市開国記念館(彦根城佐和口多聞櫓)

午前:名勝玄宮楽々園

所在地:滋賀県彦根市金亀町3

アクセス:JR彦根駅から徒歩約20分

玄宮園において、近年の護岸修理事業や植栽整備事業について整備事業担当者よりご案内いただきます。また、修理が竣工した楽々園の建造物や今後修理予定である玄宮園内の臨池閣の見学も予定しています。

午後:彦根城(*彦根城博物館は見学に含まれておりません。)

所在地:滋賀県彦根市金亀町3

アクセス:JR彦根駅から徒歩約20分

旧彦根藩松原下屋敷(お浜御殿)庭園(予定)

所在地:彦根市松原町515

アクセス:JR彦根駅から徒歩約30分

*見学先、見学順は変更になることがあります。

【2日目】令和5年11月19日(日)

研究発表会、公開シンポジウム

10:00～17:00(予定)

会場:彦根勤労福祉会館大ホール

所在地:彦根市大東町4-28

アクセス:JR彦根駅より徒歩5分

午前:公開シンポジウム

「旧彦根藩の大名庭園と世界文化遺産登録～再生と未来～」(仮)

午後:研究発表会

*終了時刻は予定です。発表件数により前後いたします。

◆参加費(入園料を除く)

1日目:学会員:1,000円、非学会員:2,000円、
学生:無料

2日目:無料

*資料代(『研究発表要旨集および公開シンポジウム資料』)は未定です。

*参加申込み・参加費の支払い・リモート参加の方法等、は次号にてお知らせいたします。

2. 研究発表の申込みについて

◆発表申込み方法

発表者氏名・所属・題名・連絡先（住所、電話番号、電子メールアドレス）・会員種別を明記し、発表概要（200字程度）を添付の上、下記関西支部事務局担当者宛電子メールで送信してください。

【研究発表申し込み期限】

令和5年10月14日（土）12:00 必着

◆発表要旨執筆要領

研究発表申込み者は、下記の要領で発表要旨を提出願います。研究発表会においては全発表者分を研究発表要旨集として印刷し、現地参加者およびリモート参加者に配布します。原稿はそのまま要旨集の版下とするため、ワープロソフトを使用して作成願います。文量は、A4判で6ページ程度とし、モノクロ印刷とします。

Microsoft Word もしくは PDF ファイルを添付した電子メールで下記関西支部事務局担当者宛送信してください。文字数及びページレイアウトは、学会誌の論文の書式に準じてください（横書き2段組、1段あたり25字40行）。

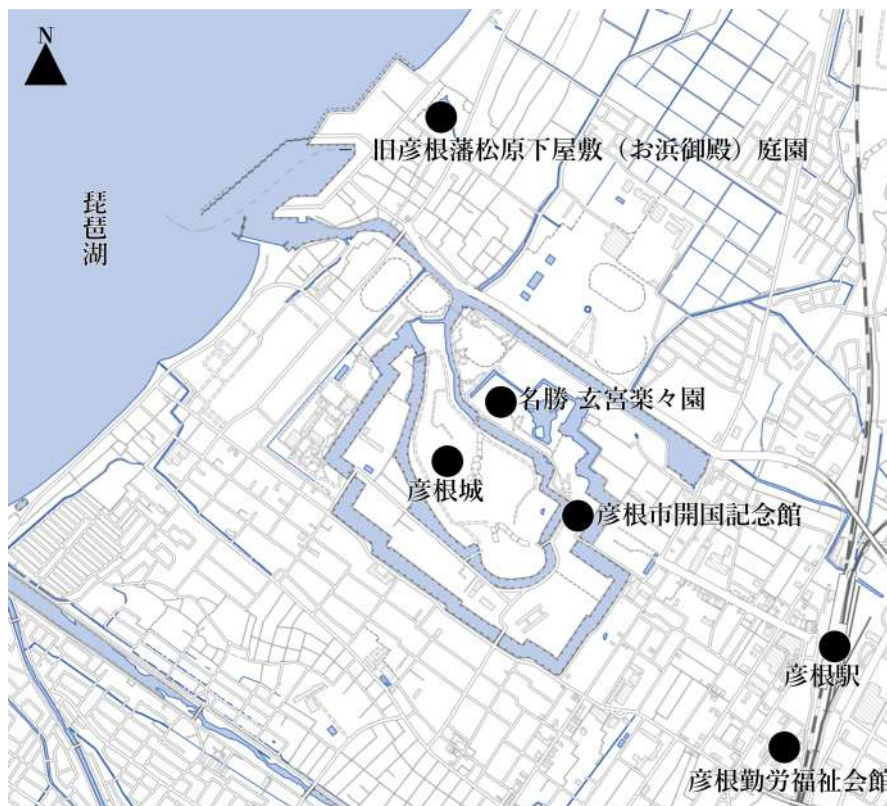
なお、書式は日本庭園学会ホームページからダウンロードが可能です。申込みと資料提出の締切日は厳守してください。

【発表要旨提出期限】

令和5年11月4日（土）12:00 必着

◆研究発表申込み、発表要旨提出先

日本庭園学会関西支部事務局 担当者：仲隆裕
naka@kua.kyoto-art.ac.jp



見学各所入園料（予定）

■彦根城（玄宮園を含む）
800円*大学生も同額

■旧彦根藩松原下屋敷（お浜御殿）庭園
無料

■彦根市開国記念館
無料

令和5年度日本庭園学会全国大会 「江戸の大名庭園～再生と未来～」シンポジウム 感想文

令和5年度(2023)、日本庭園学会全国大会のテーマは「江戸の大名庭園～再生と未来～」であり、2023年6月3日、現地検討会は旧浜離宮庭園、シンポジウムは中央区環境情報センターを会場として開催される予定でした。しかし、台風2号の影響により、旧浜離宮恩賜庭園で行われる予定であった現地検討会は中止となりましたが、午後のシンポジウムは予定通り開催されました。

今回のシンポジウムでは、浜離宮恩賜庭園を中心に浴恩園や築地市場の開発という観点から学習院女子大学教授の岩淵令治氏、東京都埋蔵文化財センター調査研究員の加藤秀之氏、公益財団法人東京都公園協会公園事業部文化財庭園課長の中山なつ希氏、中央区副区長の吉田不曇氏と学会理事の菊池正芳氏を座長とする総合討論会の2部構成でした。

岩淵氏より、浴恩園には池があったが、花卉・果樹を蒐集してありのままに育てていたことから植物をメインに扱っていたのではないかというお話をいただき、松平定信の趣味を垣間見ることが出来ました。そして、崩れずの岸と呼ばれる、江戸時代に何回も高潮により崩された岸を石などを使い作り直しながら生活してきたこと、汐入の池の維持が大変であることを学ぶことが出来ました。

そのような歴史のある浴恩園の発掘調査を行った加藤氏からは、埋め立て前の池の深さや、春風の池と秋風の池の護岸施設の有無、汐入の石積みの水路跡が近世に再構築されたものであること等、様々な事柄を明らかにし、興味深い調査結果が報告されました。さらに浴恩園は旧築地市場の建物基礎や埋設管により攪乱を受けていたものの、近世から近代にかけての遺構や遺物を検出し、浴恩園の境界を知ることが出来ました。

中山氏より、浜離宮恩賜庭園では本質的な価値を伝え、育んでいくために何ができるのか、どのように庭園を楽しんでもらうのかというお話をいただきました。都立庭園はお客様が来園

することによって維持管理を行っており、活用することにより文化財庭園の魅力を伝えられ、後世に大切に受け継いでもらうことが出来るため、保存と活用のバランスをとるのは難しいことではありますが、今後も取り組んでいく必要性を感じました。

吉田氏より、中央区のまちづくりについて講演していただき、高速道路の地下化によって空いてしまうスペースに開放的な47都道府県の庭をつくるという斬新なアイデアを提示いただき、癒しの空間、緑のある空間が生まれ、かつ東京都と各県の繋がるきっかけになると感じられました。また、ビル同士をつなぐような歩行者ネットワークを設けるお話や浜離宮恩賜庭園を外から見る発想もあり、庭園の新たな見方が生まれる可能性を感じる事が出来ました。

総合討論では、パネリストの方々が過去・現在・未来について討論を行いました。中央区と浜離宮恩賜庭園との連携、そして連携をすることにより小さい頃から庭園や緑に親しんでもらい大人になっても活用してもらえるような仕組みが出来ていること、このサイクルが未来に繋がっていけば良いという未来への希望、花卉など江戸で植木が多様であったことや歴史の重みを大切にしていくこと、日本の心をどのように考え、伝えていくか等、後世への期待と願いを感じる事が出来ました。

浴恩園跡、浜離宮恩賜庭園等の築地市場周辺地域で、今後も開発が続いていきます。今ある空間を守りつつ開発を進め、未来に残るまちづくりが行われていくことを期待しています。

東京農業大学大学院 地域環境科学研究科
造園学専攻 博士前期課程 1年

菅井花香

シンポジウム登壇者

写真提供：粟野隆氏



座長：菊池正芳氏
日本庭園学会全国大会運営
委員長、本会理事



岩淵令治氏
学習院女子大学教授（近世史）



中山なつ希氏
東京都公園協会文化財庭園
課長（庭園の保存と活用）



吉田不曇氏
中央区副区長
（都市計画・まちづくり）



加藤秀之氏
東京都埋蔵文化財センター
調査研究員（考古学）



総合討論の様子

日本庭園学会 オンラインセミナー 2023 秋 庭と園に学ぶ ～近世と近代～

日本庭園学会は、日本庭園を多方面から総合的に研究・討議するとともに、日本庭園を軸として日本文化について考究することを趣旨としています。

本学会では、日本庭園の研究を造園の専門分野のみからアプローチするのは不十分であると考えます。建築・考古の分野はもとより、生活文化としての茶道・華道、あるいは精神文化としての哲学・宗教、特に仏教文化の分野、さらに美術・工芸、絵画等々、多方面から行われてこそ、はじめてその完きを得るものと考えます。そのため、本オンラインセミナーでは、多彩な分野の先生に御講演をいただき、日本庭園学の深淵に触れる企画としています。

本セミナーは学会主催ですが、会員のみならず広く一般の方に向けて、様々な実践智（現場の肉声）と思考智（研究の成果）をわかりやすく話題提供し、日本庭園学のこれまでとこれからを展望していく内容です。

Zoom 開催のため、参加登録制*にて、毎回どなたでも、世界中のどこからでも、視聴・参加可能です。多くの方々の参加をお待ちしております。

*参加登録制：開催期間内であればいつでも登録可能。一度の参加登録で全ての回を聴講可能。

【参加費】 無料

【定員】 300名

(*) 非会員も参加可

【申込方法】

右記 QR コードを読み取り、リンク先の申込みフォーム(Google フォーム)より必要事項を明記し、参加登録をしてください。



Google フォームでの登録ができない場合は、

- ①お名前、②ご所属、③メールアドレス、
- ④会員/非会員の別を記載の上、

teienzoom@gmail.com までお申込みください。電話・FAX・郵送でのお申込みに応じられません。予めご了承ください。

◆各回プログラム

9月25日(月) 18:00～19:30

【鉢植が並ぶ庭】

平野 恵氏

台東区中央図書館 郷土・資料調査室

近世後期に発達した園芸文化の背景には、植木鉢の普及がある。変化朝顔を例にすれば、鉢植で栽培することによって品種間の交雑を防ぎ、品評会に展示しやすい形態として必然的に選ばれていった。また、情報を先取りした本草学者と植木屋も、薬草・有用植物を植木鉢で栽培した。

本報告では、植木鉢の普及の結果展開した多くの文化事象を紹介し、鉢植が並ぶ植木屋や本草学者の庭および東海道を往来する人びとが休憩した沼津帯笑園の事例を紹介する。

10月2日(月) 18:00～19:30

【江戸大名の庭と上水】

内藤 啓太氏

法政大学 デザイン工学部建築学科

江戸の多くの大名藩邸では、池を中心に配した庭がつくられ、立地する地形によってさまざまな水利用があった。上水も、そうした水のひとつであり、飲料水として江戸の市街地を潤した一方、庭園都市と称される江戸の形成に重要な役割を果たした。本講演では、江戸の上水制度やその給水範囲を踏まえつつ、上水によって庭にあらわれた水の景観を紹介しながら、江戸大名の庭における上水の意味について考えてみたい。

10月10日(火) 18:00～19:30

【近世大名庭園の考古学】

谷川 章雄氏

早稲田大学 人間科学学術院

今も残る江戸や国元の名大庭園の多くは、史跡・名勝などに指定された文化財庭園であり、その整備にあたっては発掘調査が行われている。また、江戸や国元の城下町では、大名屋敷の庭園の遺構が発掘されている。ここでは、こうした大名庭園の考古学について考えてみたい。

10月16日(月) 18:00～19:30
【城下町金沢の遙拝と庭園】

鏝 隆弘氏

金沢美術工芸大学 ホリスティックデザイン専攻

金沢の街は、街路を中心に江戸期の形を多く残している。庭園としては藩主加賀前田家の兼六園、家老本多家の松風閣庭園、中級武士寺島家の乾泉庭や脇田家の玉泉園が現在も残っており、江戸期の様相を伝えるものとなっている。近年に金沢城の一廓に再現された玉泉院丸庭園では庭園の外の対象を遙拝する形が見られる。他に街中においても起伏の多い地形を活かした月見の場などがあり、街にも庭園的な様相が見られる。今回は城下町金沢の特徴的な形として紹介する。

10月23日(月) 18:00～19:30
【近代・東京の庭師と数寄者】

松本 恵樹氏

(有)春秋設計工房/東京農業大学客員研究員

明治、大正、昭和と東京の下谷根岸で活躍した庭師、2代松本幾次郎と弟の松本亀吉の人物像と作品について紹介する。2代幾次郎と亀吉のパトロン的存在であった近代数寄者の益田克徳と高橋箒庵との親交等についても紹介する。

10月30日(月) 18:00～19:30
【日本庭園にみられる日本とフランスの剪定方法の比較】

石井 匡志氏

アゴラ造園(株)/一造会幹事長・フランス海外研修団長

フランスの日本庭園では、段づくりや玉ちらしなどの樹形に仕立てられた樹木がみられる。ジャルディニエ(フランス人庭園管理技術者)の間で「すかし」や「にわき」という剪定方法が認識されている。しかし、多くのジャルディニエは日本人から直接指導を受けた経験がない。その結果、段づくりや玉ちらしはジャルディニエの理解によりフランスの剪定技術と融合した特有の樹形となる。フランス渡航し、ジャルディニエと共に剪定をしながら感じたことを含めて、ジャルディニエ達の樹形の捉え方やフランス特有の剪定方法について話す。

11月6日(月) 18:00～19:30
【雑木の庭と、にわアラカルト】

岡島 直方氏

南九州大学 環境園芸学部 環境園芸学科

最初に現在の庭園学会の会員の方の仕事の中で、私が銘記していることについて話し謝意を表明したいと思います。その後、当方が雑木の庭について調査した約30年前の状況について話したり、庭と連動して捉えられるさまざまな活動や事象について触れたりしていきたいと思っています。例えば自然風を実現するために観察者(作庭家)飯田十基が見たと思われる風景とは、日本文化の中に流れ込んでいる聖書的世界観、建築家の作った庭、などについても話してみたいと思います。

11月13日(月) 18:00～19:30
【東京臨海部の潮入りの庭と都市計画】

竹内 智子氏

千葉大学 園芸学研究院 ランドスケープ・経済学講座

江戸は水運が物流の中心であり、町中に水路が張り巡らされ、海辺には多くの潮入りの庭園がありました。干満に合わせて海水が園内の池に出入りし、当時は生活の場だけでなく釣りや舟遊びも楽しまれていました。「潮入りの庭」は、景観の変化をもたらすだけでなく、潮の干満により生物多様性も育み、都市にとっても様々な意味をもって作庭されてきました。当時の潮入りの庭の機能について紹介するとともに、現在の東京の都市計画の中で文化財庭園がどのように捉えられているのかについてお話しします。

令和5年度特別展



湯島の地に聖堂あり

—江戸・東京の学び舎と文京—

会 期：令和5年**10月28日(土)～12月10日(日)**

休館日：毎週月曜日

入館料：100円(20名以上の団体は一人70円) ※11月3日(金・祝)は無料公開日。
中学生以下と65才以上の方、障害者手帳などの提示により、
ご本人と介護の方1名は無料です。

※文京区立森鷗外記念館入館券の半券を持参の方は、団体料金にてご観覧頂けます。
その他、会期中の関連事業などもあわせてご覧ください。



会期中の関連事業

● 第20回全国藩校サミット文京大会 会期：令和5年11月18日(土)※事前申込制

● 令和5年度文京区企画展

「ぶんぎょうの学び舎展 ～昌平坂学問所が未来に紡ぐもの～」

会期：令和5年11月14日(火)～21日(火) 会場：文京シビックセンター1階ギャラリーシビック

● 森鷗外記念館特別展「千駄木の鷗外と漱石(仮)」

会期：令和5年10月7日(土)～令和6年1月14日(日)

● 文京区社会福祉協議会「Bチャレ」助成事業(提案公募型協働事業)

「小石川植物祭2023」

会期：令和5年11月3日(金・祝)～5日(日)



全国藩校サミット文京大会
公式キャラクター「ゆしまる」



文京ふるさと歴史館

〒113-0033 東京都文京区本郷4丁目9-29 TEL:03-3818-7221
<https://www.city.bunkyo.lg.jp/bunka/kanko/spot/museum/rekishikan>

湯島の地に聖堂あり —江戸・東京の学び舎と文京—

お茶の水の地に約330年間に亘って所在している史跡・湯島聖堂は、かつて上野忍ヶ岡にあった徳川幕府の儒官・林羅山邸内の孔子廟が、五代将軍・徳川綱吉によって現在地の湯島に移された事に始まります。

その後は徳川幕府直轄の学問所“昌平坂学問所（別名、昌平黌）”となり、数多くの人材を輩出してきました。

明治年間初期の一時期、文部省が置かれ、日本初の博覧会場となるなど様々な歴史の舞台となってきました。大正11年に史蹟名勝天然記念物保存法により国の史蹟となるも、翌年の関東大震災で甚大な被害を受けました。その後、嘉納治五郎や渋沢栄一らが組織した“湯島聖堂復興期成会”により、昭和10年に現在の姿で甦りました。

昭和25年に文化財保護法に基づく国史跡に引き継がれ、文化財指定から100周年を経過した貴重な文化遺産です。「第20回全国藩校サミット文京大会」の一環として、湯島聖堂に関わる歴史や文化、文京区ゆかりの大家とその藩校などを紹介します。



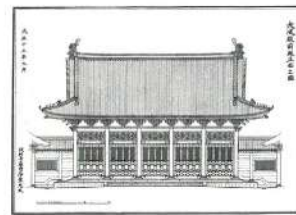
「えはがき 聖堂大成殿全景」



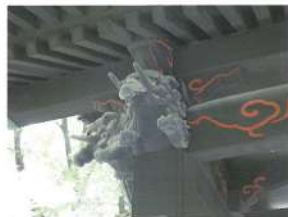
再興記念・棟札形文鎮



仰高門の狛犬



大成殿（正面）設計図



入徳門の神獣



新撰東京名所図会

特別展附帯事業

●記念講演会

「湯島聖堂にみる伊東忠太の建築意匠」(仮)

日 時：12月3日(日) 午後2時～4時(開場は1時30分)

募集人数：100名

講 師：角田真弓氏(東京大学大学院工学系研究科)

会 場：文京区民センター3A会議室(文京区本郷4丁目15番14号)

●史跡めぐり「江戸の学問の足跡を巡る」(仮)

日 時：12月7日(木) 午後1時～4時

●展示解説

特別展会期中に、担当学芸員による展示解説を行います。

日時は下記にてお知らせします。

※記念講演会・史跡めぐりの応募方法や受付開始時期などの詳細については、「区報ぶんぎょう10月25日号」(10月25日発行予定)と、文京区HPにてお知らせします。



交通案内
東京メトロ丸の内線「本郷三丁目」駅(①出口)徒歩5分
都営大江戸線「本郷三丁目」駅(③出口)徒歩5分
都営三田線・大江戸線「春日」駅(A2/A3出口)徒歩5分
都営バス、都02/上69「真砂坂上」停留所徒歩1分
文京区コミュニティバスB-ぐる「文京シビックセンター」
または「ラクーア」徒歩10分、「菊坂通り」徒歩6分

文京ふるさと歴史館

〒113-0033 東京都文京区本郷4丁目9-29 TEL:03-3818-7221

<https://www.city.bunkyo.lg.jp/bunka/kanko/spot/museum/rekishikan>



わがはい君

D0123009

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしく
お願いします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほ
どよろしくお願いします。

協力者：森本・細井(植彌加藤造園株式会社)

日本庭園学会 広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-1

京都芸術大学日本庭園研究センター一気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342